

日本植物運輸株式会社協議概要（素案）

1. 日時：平成20年8月7日(木) 14:00～17:10（途中、休憩挟み）
2. 場所：メルパルク東京（シエル・6F）
3. 出席者：

・日本植物運輸(株) 社長 柏村 哲徳【豊明花き(株)社長】
副社長 荒木 和幸
専務取締役 千綿 克彦
関東営業所部長 地下 智弘

・(社)日本花き生産協会

(社)日本花き生産協会会長 田島鉄弥(埼玉)鉢物部会顧問

同副会長 瀧 文臣(茨城)鉢物部会幹事

鉢物：加藤孝義(部会長・岐阜)、前林健一(副部会長・千葉)、戸谷猛(副部会長・愛知)
朝見良治(会計・埼玉)、登坂初夫(監事・群馬)、高橋範幸(神奈川)、内藤博孝(東京)

洋らん：内田傳(顧問・山梨)磯部徳松(部会長・愛知)、早川林(事務局長・愛知)、古原均(シンビジューム部門長・千葉)、坂野敏三(ホームページ・愛知)、日向野薫(監事・栃木)、事務局 吉野、福田

4. 協議(要望)概要

- ・田島：21日に要望、抗議したが、今日は回答をいただけるかなーと期待していたのですが。
- ・柏村：21日はおいで頂き、色々回答させていただきましたが、我々のほう厳しいのが現状でして、9月1日としたが、日本植物としては、前回の20%値上げとして理解いただきたい。
- ・会長：延期9月1日まで、後は話し合うということで帰ったと思うが、1ヶ月延びても生産側から見れば、余り関係ない。ただ、それだけでは話にならないなというのが心境です。話し合い、お互いが納得できる線が出てこない、一方通行になってしまう。こちらにも責任ある立場の者が来ているのだから、何故こういうことがおきたか。7月に入って、20%値上げ通知が来た。最近色々な情報を開くと花が危機的な状況にある。生産現場から見れば、重油が上がる資材が上がる。花は売れない。一番大変なのが生産者、次が小売、市場、一番恵まれているのが運送業ではないかと、常識的にいわれている。いきなり、こんな値上げの通知があれば、受け入れられない。社長(日本植物、豊明け花き)は現状認識どう思っているか。
- ・柏村：今回始めて生産協会と話をする。地域、などとは話をしているが、これからは、改めて全国組織と話し合いをさせてもらいたいと思っている。この業界も、撤退、倒産している。会社自体が大変で、決して恵まれているとは思え

ない。20%が妥当かどうか、この何年か値上げをしたい状況にあったが、お互いのこともあり、なかなか値上げに踏み切れず、ここまで来た。

- ・田島：恵まれている・・・言葉を換えればダメージが少ないという、儲かっているということではなく大変さからいくと、運送屋さんがいいというのが常識とおもう。一番大変なのは生産者。7月29日理事会でも、議論したが、重油が120円位、1月から3月花き生産が減る。花の業界崩れる。業界が危機的状況だ。この中で20%上がるのは大変だ。感覚的に鉢の運送屋さんはいいな～、いい車に乗ってなどきく。新しい車など買っていない。どこまで経営努力をしているのか。
- ・柏村：我々も触媒は付けている。車検で変更ができない部分についてのみ新しい車に替えている。コストダウンに努めている。流通コストの改善にも努めている。そのことで運賃を上げてくれということは言っていない。重油高騰が耐えられないところに来ているので値上げをお願いしている。
- ・田島：油の問題だが、基本的には下がらないと言われているが、上下はある。肥料は原料が取れる場所が限定されているので値上がりする。生産者が苦勞し、危機的な状況の中で、社長はトップ企業でもあり、豊明花きの社長でもあるが、危機感を共有する姿勢が欲しい。運送屋のコスト増はあるが、花が売れていない。お互いがどこかを我慢しなければこの業界成り立っていない。
- ・柏村：先週辺り、集荷量半分だ。半分でも相場が下がっている状況。生産者も年明け乗り越えるのが大変だということも分かっている。燃料については、いま止まっている状況であるが、今期、1億程度上げてもらうが、さらに上がれば、オイルサーチャージ制など新しい運賃制度を考えないといけないと思う。生産協会にも相談しないとイケない。原油下がれば下げないといけないが。
- ・会長：下げることは今までない、考えられない。1億数千万円、個人企業でその位の損失は経験している。生産者は減を持っていくところがない。トップ企業として、少し考えて欲しい。（下げますからどうですかという気概を持ってほしい。）大産地、組織12月からお願いしているが、生産者へは、7月に手紙を突然出した理由は、三千数百通出したところ、大きいところに初めに説明すべきではないか。
- ・柏村：12月大産地、豊明の生産者に話を出し説明をしたが、厳しい状況を説明した。8月値上げはその際説明していない。7月初めに決定し一斉に連絡をした。
- ・会長：決定的な対立にならないようにしたいが、はいそうですかと認めるわけにはいかないというのが実情だ。
- ・内藤：日本植物の収入の源は、運送分のみか。20%値上げの大きさですが、車の年間の稼働率などどうなっているか。30億なら20%値上げで6億増収、現状で1億数千万円増収ということのようだが、今回の値上げにジーゼル規

制に対する対応も入っているのか。平成14年からスタートして、平成22年には、7年ぐらいたつが、新車でも、7年ぐらいで更新しなければならない状況のようだが。それがあったにしても、半分交換して、更新できるのではないか。

- ・ 柏村：日本植物収入ほとんどが運搬収入だ。集荷場運営、荷物配送もあるが、今回お願いしているのは、市場への集荷分の燃料費上昇分、特別運賃としての大口5%、小口20%、ここ1~2年伸びた燃料の増加分でしかない。本当のギリギリの部分です。個人集荷と大口とはコストの点で差をつけた。
- ・ 内藤：車両の稼働率はどうなっているのか。集荷のみか、その他の活用は。
- ・ 柏村：日本植物としてもいろいろなことをするようになった。切花、高原野菜の集荷など、一般雑貨も行うようになった。ただ、台車を積んだ場合はそうはいかないが、仕事がある時は出している。
- ・ 内藤：私の所に来ている会社では、経営努力の中で、今回値上げをしないと文書が来ている。生産者は値上げしないが、配達値上げする。逆だいずれにしても、差額分が見えない。内容が見えないとはいわかりましたと言えない。
- ・ 柏村：全部売り上げ上げても27億、約30億です。規模としては。
- ・ 朝見：集荷場持っており、運送屋と付き合いがあるが、値上げをするという運送屋は聞いていない。日本植物が20%と聞いた、驚いた。なぜだろう、実際値上げをしたいというところはない。納得いかない。個選で出しているところも多い。サーキュレーションなど、値上げ考えていないと言っている。上げたくても上げられないところもあるかもしれないが、もう少し市場と連携した中で、いろんな努力をしながら頑張っている。生産者に周知する努力を少しして欲しい。大変だというところで20%ということでは生産者に伝えられない。
- ・ 会長：技術革新、厳しい時に出てくる。経営でも同じで、花が下がっている状況下で、その中で、赤字だから、上げる、経営改革進んでいるのか、安易に高コスト体質ではないかと見ている。赤字票が来る。最近聞く。今までは、広く流通していたが、生産物が下がれば下がるほど産地市場に出ていく。運賃が下がれば当然そうなる。体質を変えていかないといけない。コストを下げた形で流通させるか、検討会を行ったことがある。そういうことが必要な時期ではないか。鉢物運賃の2割か3割になるそれでは遠くへ出せない。運命共同体的なものがあるので、市場、運送などシステムが作れないか。
- ・ 柏村：日本植物が高コスト体質と指摘される点については、バケット輸送とか、率先してやってきた。メリットがない、逆にマイナスになる点もやってきた。その部分を賄ってきている部分もある。やりたいことだけやるならいいが。
- ・ 内藤：売上27億、200台なら、1台が1千万円強、その位しかないか。私

のところでは、4から5万円、1日何回かやっているが。

- ・ 柏村：春のシーズンと、夏のシーズンもあり、その位。近いところでは、合理的にできるが。
- ・ 内田：洋らん・・今年一杯持つか持たないか、運送賃2,000万円、燃料費2,000万円かかっている。将来的に続くか心配。洋らん800人組織化しているが、持つか持たないか心配している。先物、9月以降下げる意向にあるような状況が出ているが、今年度は様子を見るということではできないか。運送屋さんの話を聞くが、日本植物運輸がどうなっているか、聞かれる。業界影響力ある。急に20%となると、市場手数料10%と運賃量で30%は超えている。社長は、最大の市場の一つでもある。考えてもらえないか。平行線が終わっても困る。
- ・ 柏村：これまでのマイナスが深刻、今後の運賃のあり方も含め生産者とも検討したいと思っている。今までのものをお願いしたい。今後このまま推移すればいいが、下がれば下げるが、また上がってくれば改めて話をしたい。実際上げているところもあると聞いている。
- ・ 瀧：値上げをしますよ。納得しないとどうにもならない。我々も説明できない。納得できるものを出して欲しい。
- ・ 内藤：市場単価、18千ケース出すが、ほとんど業者をお願いしている。生産者が市場に運ぶ者が出てきたが、やはり、もちや、もちやが本来の姿。生産者の仕事ができない。お互い努力をしながらやるのが姿だと思う。稼働率を高めていくのが業界の姿だと思う。日本植物の運転手そのつど道をきくなど、配置の問題なども含め努力してほしい。
- ・ 朝見：5%のところ、20%で、平均したらどのぐらいになるか。
- ・ 千綿：昨年のでーターでいくと1億8千万円の運賃収入となり、27億円だと7～8%位。(8.7%)
- ・ 瀧：燃料費はどのぐらいを占めるのか。
- ・ 千綿：約15%位と思う。
- ・ 柏村：これまで値上げしたいと思っていたが、我慢していたという実態がある。
- ・ 瀧：これまでのものなどでは、納得させられない。
- ・ 柏村：割引制度が伝わっていない。
- ・ 早川：蘭やっているが、このまま飲んでは、説明がつかない。運送関係も補助で措置するという話も出てきているようだが、今回の20%提案、値下げできないか。また、1年後なりで討議して頂ければと思っている。
- ・ 内田：利益が上がっていればいいが今年の4月から、胡蝶蘭など半値だ、生きていけるか、心配。
- ・ 会長：生産者20%、部会などで討議しても、納得できない。だったら拒否しま

のところでは、4から5万円、1日何回かやっているが。

- ・ 柏村：春のシーズンと、夏のシーズンもあり、その位。近いところでは、合理的にできるが。
- ・ 内田：洋らん・今年一杯持つか持たないか、運送賃2,000万円、燃料費2,000万円かかっている。将来的に続くか心配。洋らん800人組織化しているが、持つか持たないか心配している。先物、9月以降下げる意向にあるような状況が出ているが、今年度は様子を見るということとはできないか。運送屋さんの話を聞くが、日本植物運輸がどうなっているか。聞かれる。業界影響力ある。急に20%となると、市場手数料10%と運賃量で30%は超えている。社長は、最大の市場の一つでもある。考えてもらえないか。平行線で終わっても困る。
- ・ 柏村：これまでのマイナスが深刻、今後の運賃のあり方も含め生産者とも検討したいと思っている。今までのものをお願いしたい。今後このまま推移すればいいが、下がれば下げるが、また上がってくれば改めて話をしたい。実際上げているところもあると聞いている。
- ・ 瀧：値上げをしますよ。納得しないとどうにもならない。我々も説明できない。納得できるものを出して欲しい。
- ・ 内藤：市場単価、18千ケース出すが、ほとんど業者をお願いしている。生産者が市場に運ぶ者が出てきたが、やはり、もちや、もちやが本来の姿。生産者の仕事ができない。お互い努力をしながらやるのが姿だと思う。稼働率を高めていくのが業界の姿だと思う。日本植物の運転手そのつど道をきくなど、配置の問題なども含め努力してほしい。
- ・ 朝見：5%のところ、20%で、平均したらどのぐらいになるか。
- ・ 千綿：昨年のデータでいくと1億8千万円の運賃収入となり、27億円だと7～8%位。(8.7%)
- ・ 瀧：燃料費はどのぐらいを占めるのか。
- ・ 千綿：約15%位と思う。
- ・ 柏村：これまで値上げしたいと思っていたが、我慢していたという実態がある。
- ・ 瀧：これまでのものなどでは、納得させられない。
- ・ 柏村：割引制度が伝わっていない。
- ・ 早川：蘭やっているが、このまま飲んでは、説明がつかない。運送関係も補助で措置するという話も出てきているようだが、今回の20%提案、値下げできないか。また、1年後なりで討議して頂ければと思っている。
- ・ 内田：利益が上がっていればいいが今年の4月から、胡蝶蘭など半値だ、生きていけるか、心配。
- ・ 会長：生産者20%、部会などで討議しても、納得できない。だったら拒否しま

うかと思う。どうにもならない状況なので9月1日実施で、廃止する路線も出るということで、20%下げを前提では

- ・会長：そういう前提ということでは、意向としては聞くが、どこどこということが出ないといけない。話し合いは譲歩が原則ではないか。いきなり20%は状況として花き業界は疲弊している。話し合いとして歩み寄りをすることが前提ではないか。5%も高いが、20%など飲んだのかという批判も出る。全面撤退ならいいが、上げる、かつ現状なら飲めない。
- ・内田：20%は少なくならないか。
- ・瀧：納得させるのにどうするか。
- ・日向野：燃料費4倍ぐらいになっている。それだけで、売上が25%下がった。花の単価も下がっている。日本植物は何で食っているか。日本植物運輸、我々も努力している。日本植物さんだけいいということはおかしい。
- ・内田：この12月超えられるか。そこまで待つということにはならないか。
- ・磯部：生産者は逃げ道がない。
- ・柏村：日本植物で協議したい。時間をもらえないか。打ち合わせをしたい。
(休憩)
- ・柏村：了解取れたところは別にして、鉢物の地区単価でお願いしている20%値上げを10%値上げの改定でお願いをしたい。最終回答としたい。それ以外の特別運賃、安い単価でのところ等、基本的に個別の話し合いを行っていますが、5%から20%以上がありますが、そこはその方向で願する。特別運賃はケース単価の所とか、従来の経緯を引き継いで、特別に安くやっていた地域です。
- ・会長：地域は、具体的には
- ・荒木：特別地域、東北方面で点数制でなくケース単価などで行っていた地域（仙台生花への輸送、岩手県、青森県、宮城県、秋田県、山形県の地域）
- ・柏村：すでに動いており、9月1日ということをお願いしたい。燃料値上がりもあり、来年はじめにはこういう場を作ってほしい。
- ・事務局：1,000点、2,000点への対応、値引きも前回説明どおりか。
- ・千綿：同様です。
- ・前林：出荷場（大口）など、基準はあるのか。
- ・千綿：日本植物が運んでいる点数として、としおず407万点、赤羽263万点、西尾231万点、知多南部93万点、基準値は西尾の約200万点以上としてきている。知多南部については、2年前、JA知多設備投資されたので、適用している。全部の地域で前日夕方まで事前出荷情報をもらっている。
- ・会長：いずれにしても、早急に検討し、相談して（9月1日も含め）、意見集約をして、回答したい。